

■前田青郁 日本画家。新たな様式の創出に挑戦し続け、“青郁様式”を確立後も、肖像や花鳥画に独自の画境を開いた。

まえだせいそん

内閣発足・1885＝ 岐阜県中津川で次男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 4歳：

足尾鉍毒始・1891＝ 6歳：尋常小学校に入学。図画が得意であった。

日清戦争始・1894＝ 9歳：

八幡製鉄始・1897＝12歳：尋常小学校を卒業。

子規句歌革新1898＝13歳：母死去。上京して京華中学校に入学するが、病を得て帰郷。

田中正造直訴1901＝16歳：画家になることを決意して、再び上京し、梶田半古の門に入る。2つ年上で塾頭の小林古径を知り、以来行動をともにする。

教科書疑獄・1902＝17歳：第12回日本絵画共進会展に「金子家忠」を出品、3等褒状を受け、半古から青郁の号をもらう。

日比谷公園・1903＝18歳：国学院大学の聴講生となり、古典文学を学ぶ。

日露戦争終・1905＝20歳：

韓国反日暴動1907＝22歳：東京勸業博覧会に「御輿振り」を出品、3等賞牌を受ける。文展の「大久米命」は落選。今村紫紅、安田靉彦らの紅児会に加わり、新しい歴史画の研究に進む。

アヲヲ創刊・1908＝23歳：国画玉成会に「囚われたる重衡」を出品、3等一席となる

大逆事件判決1911＝26歳：文展に「竹取」「法華教」を出品。敬慕する下村観山と初めて対面。

明治天皇没・1912＝27歳：この年、結婚。*岡倉天心に‘にがりをとりなさい’と忠告され、大きな影響を受ける。天心の示唆で制作した「御輿振」(絵巻)を第6回文展に出品、3等賞を受け画名を知られるようになった。

大正政変・1913＝28歳：最後の紅児会展に「蝦蟇仙人と鉄拐」「橋合戦」「吉原がよび」を出品。

第一次大戦始1914＝29歳：再興日本美術院に参加し、その第1回院展に「竹取物語」(絵巻)と「湯治場」を出品、同人に推挙された。

21ヶ条要求・1915＝30歳：単身朝鮮へ旅行。院展に「朝鮮之巻」を出品。この頃から個性的な感覚と画面構成の面白さは注目され、

民本主義・1916＝31歳：院展に出品の「京名所八題」の内「先斗町」の大胆な俯瞰法は、岡本一平の漫画(軍人がこの絵の前に立ち“高度何メートルの飛行機から見たところ”と説明する)でも評判になった。このような視角の斬新さは、一連のやまと絵研究の成果でもあるが、生来の感性と卓抜な素描力によってはじめて可能となった。

ロシア革命・1917＝32歳：院展に「切支丹と仏徒」を出品。

本格政党内閣1918＝33歳：院展に「維盛高野之図」を出品。

ベルサイユ条約・1919＝34歳：中国へ旅行。院展に「燕山之巻」を出品。

この頃スランプに陥り、妻から参禅を勧められる。

原敬首相暗殺1921＝36歳：

水平社結成・1922＝37歳：日本美術院留学生として古径とともに渡欧、遊学。

関東大震災・1923＝38歳：大英博物館で顧口之筆「女史箴図巻」を模写し、帰国。

治安維持法・1925＝40歳：院展に「伊太利所見」を出品。

円本時代始・1926＝41歳：「漢水の夕」「漢江の朝霧」。

金融恐慌・1927＝42歳：院展に「羅馬使節」「西遊記」を出品。

世界恐慌・1929＝44歳：院展に「洞窟の頼朝」(第1回朝日賞受賞)と、相次いで秀作を発表。

海軍軍縮条約1930＝45歳：*院展「墨粟」では琳派の新しい解釈を示し、

満州事変・1931＝46歳：

芥川直木賞始1935＝50歳：帝国美術院会員となる。宮中献上の「唐獅子」では金銀箔を用い単純明快な独特のフォルムを生み出し、
“たらしこみ”描法を多く用いるなど、關達な鉄線描を生かした青郁様式を不動のものにしていく。

二二六事件・1936＝51歳：帝展に「観画」出品。

日中戦争始・1937＝52歳：帝国芸術院会員となる。

健保+総動員1938＝53歳：満州美術審査のため渡満。院展に「大同石仏」を出品。

第二次大戦始1939＝54歳：

大政翼賛会・1940＝55歳：院展に「鶴」を出品。「阿修羅」。

日米開戦・1941＝56歳：

1942＝57歳：院展に「奎堂先生」を出品。

年金+総武装1944＝59歳：「おぼこ」など。*皇室技芸員となる。

敗戦・1945＝60歳：

第二次大戦後、

極東裁判決・1948＝63歳：

三大事件・1949＝64歳：院展に「風神雷神」「猫」を出品。

朝鮮戦争始・1950＝65歳：院展に「鯉」を出品。文化財保護委員会専門審議会委員。

独立回復・1951＝66歳：東京芸術大学教授となり、日本画壇の長老的地位を占めるが、創作意欲は衰えず、安井曾太郎をモデルとした「Y氏像」。

TV放送始・1953＝68歳：*松永安左エ門を描いた「耳庵像」などの肖像や“紅白梅図”などの花鳥画にも独自の画境をきりひらいた。

55年体制始・1955＝70歳：院展に「出を待つ」を出品。*文化勲章受章。

国連加盟・1956＝71歳：院展に「浴女群像」を出品。

なべ底不況・1957＝72歳：院展に「ラ・プランセス」を出品。

美智子妃・1959＝74歳：東京芸術大学を退官。院展に「御水取」を出品。皇后陛下の絵の指導役となる。

安保闘争・1960＝75歳：*訪中日本画家代表団長として中国を訪れ、帰国後「赤い壁」など。

体調病始・1961＝76歳：院展に「白頭」「洋犬」を出品。

全国総合計画1962＝77歳：「石棺」。

東京オリンピック1964＝79歳：院展に「K氏像」を出品。「山霊感応」完成。

いざなぎ景気1966＝81歳：院展に「転生」を出品。

美濃部都知事1967＝82歳：院展に「蓮台寺の松陰」を出品。*法隆寺金堂壁画再現模写を監修・指揮。

震ヶ関バトル1968＝83歳：院展に「大物浦」を出品。

大阪万博・1970＝85歳：院展「腑分」など歴史画もひきつづき描いた。“戦い”のとらえ方が異なっている点も注目される。

ドルショック・1971＝86歳：*院展「知盛幻生」は歴史画への鎮魂歌ともいえる大作である。

日中国交回復1972＝87歳：*高松塚古墳壁画模写を監修・指揮。

石油ショック1973＝88歳：院展に「水辺春暖」「土牛の像」を出品。

角栄金脈辞任1974＝89歳：院展に「富貴花」を出品。*ローマ法皇庁から依頼されていた「細川ガラシャ夫人」を完成して、

JALハイジャック・1977＝92歳：*没した。

新潮日本美術文庫、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、